

日産プレジデント基金 ～被災地の子どもたちに笑顔を～ Newsletter

VOL. 3
2013.12



日産プレジデント基金は、日産自動車株式会社社長カルロス・ゴーン氏が発起人となって募った寄付金を活用し、東日本大震災で被災した子どもたちの笑顔を取り戻すためのプログラムを、日本NPOセンターが多分野のNPO、児童館、学童保育と連携して実施するものです。あそびプラスOneプログラムでは、児童健全育成推進財団の協力を得て、子どもたちの日常的なあそびの拠点である児童館に、多様な専門性を持った県内外のNPOが訪問してプログラムを提供しています。おでかけプログラムでは、被災してから、自由に外で遊ぶことが制限されたり、フィールドに出る機会が激減している子どもたちに、長期の休暇を活用して、フィールドに出かけ、さまざまな学習や体験、あそびを通じて、元気に過ごせる時間を提供しています。



あそびプラスOne プログラム



親子ふれあい交流会

小佐野学童育成クラブ/いわて子どもあそび隊

2013年10月6日、岩手県釜石市の小佐野小学校体育館には、25家族75人の親子が集まりました。小佐野学童育成クラブは、地震の影響で建物が使えなくなり、震災後5ヵ月間は近隣の学童クラブを間借りして活動を続けました。

藤平幸子主任は「子どもたちには不便な思いをさせてしまいました。今はプレハブの教室ですが、元々使っていた建物の解体もようやく決まり、少しは前に進める気がします」と、胸の内を明かしてくれました。



この日は、年に1度の親子参加の交流会。指導員さん手づくりの看板が参加者を温かく迎えてくれました。

保護者会の藤井会長のご挨拶で始まった交流会では、いわて子どもあそび隊が、親子で思いっきり体を動かしてあそぶレクリエーションと、工作の2本立てプログラムを提供してくれました。

「ウルトラじゃんけん」でウォーミングアップした後は、おなかに巻いた新聞紙を落とさないように走る「腹まきダッシュ」。満面の笑みを浮かべながら全速力で走る子どもたちに、親御さんたちから応援の声が飛びます。使い終わった新聞紙を丸めた雪合戦では、男子チームが本気で投げる新聞紙ボールを、女の子たちはうまくかわしつつ応戦していました。5人一組の「ジャンボじゃんけん」では、チーム一丸となって次の一手を考えて、次々に勝負を挑みます。全員で大きな輪を組んだ「指キャッチ」「リ-

ダーを探せ」など、隊形を変えながら次々に繰り出されるゲームを、子どもたちも、親御さんたちも、そして指導員さんたちも、一緒になって楽しんでいました。

一息入れた後は、「ストローとんぼ」をつくり、フラフープの的を狙って飛ばしました。子どもたちは、羽根の曲がり具合や飛ばし方を工夫しながら、だんだん上手に飛ばせるようになっていきます。

楽しかった2時間の交流会もあっという間に終わりが近づきました。最後にサプライズで、いわて子どもあそび隊に、子どもたちから歌の贈り物とお礼の言葉がありました。

「明るさ いつまでも 小さな ぼくたちだけ
あの青い空のように すみきった 心に なるように」
と、子どもたちの歌声に胸が熱くなるプログラムでした。



いわて子どもあそび隊

沿岸被災地の児童館などを応援しようと、岩手県社会福祉協議会児童館部会と県立児童館いわて子どもの森が中心となって結成。県内の子どもに関わる大人たちがゆるやかなネットワークを形成し、情報交換を行いながら、一緒に、楽しく、子どもたちの“あそび”を支えていくことを目指して活動しています。



おでかけ プログラム



from ふくしま to ふくおか あそびマルシェ

ふくふくあそびマルシェ実行委員会

2013年8月1日から7日、福島県いわき市の親子4組、総勢11名が福岡県を訪れ、地元の家族と交流しながら「あそび」を満喫しました。

実行委員の飯田真一さんは「親戚の家で夏休みを過ごすように、福島の子どもたちにのびのび遊べる夏休みを提供したかったです。今回ご参加いただいた方のご縁を大切に、口コミで広がっていくような活動を継続していきたいと考えています」と語っていました。

マルシェ前半は、福島の1家族が、太宰府の子どもたちのサマーキャンプに合流しました。いわき市出身のアーティストによる音楽ワークショップ、竹パンづくり、竹とんぼや竹馬などの昔あそび、木鷲の絵付け教室、そうめん流しスイカ割りなど活動は盛りだくさん。子どもたちが自ら考え、行動することを大切にプログラムは運営されました。

4日目以降は、3家族が合流して、福岡市の西に隣接している糸島で、自然の恵みと海あそびを満喫しました。まずは、福島へ定期的に野菜を送る活動をしている「糸島しましまプロジェクト」にお手伝いに行き、野菜の収穫や梅干しの袋詰めをしました。その後は、みんなが一番楽しみにしていた海あそび。シュノーケリングに挑戦したり、浮輪でプカプカ浮かんだり、それぞれの家族が思い思いに楽しんでいました。安全に安心して海あそびができるように、子ども一人ひとりにスタッフがついて見守りました。また、暑い中ひたすらBBQの火の番をしてくれたり、スキューバダイビングのインストラクターが海あそびを引っ張ってくれたり、看護師さんが見守ってくれたり、地元のボランティア一人ひとりが力を発揮しました。

最終日は自由行動の日として、福岡観光を思い思いに過ごしてもらった後、様々な支援者を交えての交流会を開催。まるで親戚の集まりのような和気あいあいとした交流会となり、子どもたちは、どの子が福島っ子で、どの子が福岡っ子なのかわからないくらい仲良しになっていました。

楽しい夏の日々は、福岡のメンバーにとって、福島の人々が抱える課題や実情、悩みを知る機会にもなりました。「目の前にいる笑顔いっぱいの子どもたちが、見えない不安と隣り合わせで生活している…。この数日間で親しくなった方からのお話は、心にずしんと響き、放射能の問題を、今までにないほど身近に感じることができました」とのスタッフの思いは、今後の活動を支える力になることでしょ。



ふくふくあそびマルシェ実行委員会

東日本大震災以降、支援活動を行ってきた多様な団体が構成。被災地で活動している団体もあれば、福岡に避難されてきた方々を支援している団体もあります。同じ「ふく」がつく地域同士、これからもつながりあって一緒に前に進んでいけるように、そんな思いで短期滞在の保養プログラムを実施しています。



あそびプラス One プログラムが 生み出しているもの

財団法人 児童健全育成推進財団 復興支援プロジェクトチーム 阿南 健太郎

「あそびプラス One プログラム」は、この約2年で230カ所の児童館、放課後児童クラブにNPOを派遣し、子どもたちにさまざまな体験プログラムを提供しています。基本は一日で完結するプログラムなのですが、NPOと児童館が共鳴し、継続した活動になっているところもあります。

昨年夏、岩手県大船渡市のにこにこ浜っ子クラブに派遣された特定非営利活動法人NICE（日本国際ワークキャンプセンター）では、ボランティアとして継続的に同クラブに関わっています。

NICEは海外からのワークキャンプ（滞在型ボランティア活動）参加者のコーディネートを行っている団体ですが、東日本大震災発生後は、被災地に海外からのボランティアを積極的に受け入れ、現地の団体と協働して復興支援活動を展開しています。活動としては、多彩な国々から集まるボランティアが自国の文化を伝え、母国語を教えるなどの国際交流プログラムはお手のものです。また、単純に子どもたちと一緒に遊ぶ、クラブの行事に参加するなどしています。これらにより子どもたちの海外への興味関心や理解が広がっています。

今年度からはこのつながりを一つのクラブだけのものにしてはもったいないと、クラブの指導員さんが市内にある他のクラブへ紹介してくれました。NICEのメンバーは、市内各地の子どもたちと関わり、大船渡と外国をつなぐ役割をしています。子どもたちの心の復興にも役立っているかもしれません。

また、このニュースレター vol.1でご紹介した仙台市田子児童館は、特定非営利活動法人水守の郷・七ヶ宿に訪問していただき、間伐材のカスタネット工作や水源を守る活動についての学習を行いました。親子での活動や木工作を展開したいと願っていた同館では、この取り組みがきっかけとなり、日常的に子どもたちが木とふれあえる機会を増やすことができました。さらに、児童館が支援金を得てバスを借り、子どもたちがNPOの拠点である七ヶ宿町へ訪問し、森林のなかでの体験活動や食事をするなど、都市と山村の交流が生まれました。

日本NPOセンターと当財団では2007年から「子どものための児童館とNPOの協働事業」を展開してきました。この経験を基に生み出した「あそびプラス One プログラム」は一日の思い出づくりだけではなく、被災地に新たな協働や連携のきっかけを生み出し始めているようです。



(写真提供：田子児童館)

表紙の写真提供：小佐野学童育成クラブ(釜石市)、不動堂児童館(美里町)、ふれあいエスブ塩竈(塩竈市)、あそび塾きんこん館(福島市)、おかやま学童どんぐり子(福島市)、若葉児童館(須賀川市)、平四小児童クラブ(いわき市)、ピーターパンチャイルドクラブ(いわき市)、ふくふくあそびマルシェ(福岡県)

編集・発行：



日本NPOセンター

認定特定非営利活動法人 日本NPOセンター
〒100-0004 東京都千代田区大手町 2-2-1 新大手町ビル 245
TEL 03-3510-0855 FAX 03-3510-0856
Email jncenter@jnpoc.ne.jp
URL www.jnpoc.ne.jp
Twitter jnpoc

運営協力：財団法人児童健全育成推進財団
制作：一般社団法人経団連事業サービス